

首都圏段戸会会報

平成29年4月
第39号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
村木 央 明
編集発行人
広報担当
村木 央 明

恩送り

第44回総会・懇親会報告

高60回 杉浦 綾香

唐突で恐縮だが、私は謝辞という文化が苦手である。一応弁明しておく、感謝を感じないわけではない。公の場で改めて感謝を述べるといふ行為が苦手なのだ。どちらかといえば感謝していることを公表することが目的であり、本来ならば心からする行為を押し付けがましく行っているようにみえて、わざとらしく感じ、肯定的に捉えることができない、というのが主な理由である。

無論、我々にとって感謝を述べることが難しいから、わざわざその機会が謝辞として準備されているのも理解できる。いつも顔を合わせる人に常日頃の感謝を改めて伝えるのは、たまたま駅で落とし物を拾ってくれた人に感謝するよりも難しい。だからこそ日頃の感謝を伝える機会として、冠婚葬祭や送別会、敬老の日や謝恩会などが存在しているのは、人間の心理を



米津勇美先生 (右から2人目)



高井俊直先生

うまく反映しているといえる。だが私は恥ずかしいだけではなく、感謝を伝えるという行為に対して疑問をいだいていて、どうしようもないのだ。どうやら私には恩送りの精神のほうに合っていて、そのように行動していると思う。恩送りはペイ・フォワードとも言われ、自分が受けた恩を別の人に送ることである。通常我々は返報性の原理に従っていて、誰かから恩を受けると、その人に恩を返すべきという義務を感じ、時には受けた恩義以上のものを返すこと

して、恩を貰ったり、恩を返したり、さらには恩を送ってみてはいかがだろうか。他の高校出身の人に聞いて



三井範康先生

衝動を、全く別の人に向けるのだ。

私は首都圏段戸会に参加し、恩を受け、恩を送ってきたと思う。先輩方に美味しいご飯を奢っていただき、将来の職業について助言をいただいた。そして、後輩が目指している業種の先輩を紹介し、岡高生に大学構内を案内した。もちろん、総会で恩師に会ったときには、過去に感謝しつつ、共にお酒を飲みながら思い出話に花を咲かせた。ちゃんと恩返しもしているのだと、念のため付け加えさせて頂く。

もある。だが、恩送りは恩を受けた相手に返すのではなく、別の人にその恩を「送る」。返報したいと思った



講師の杉浦孝明さん (左から3人目)

も、世代を超えた同窓生が集まる総会・懇親会というのは珍しいようなので、是非この場を有効活用してほしい。恩師に恩返しをしながら、先輩方から恩をいただくといひだろう。そして、受けた恩を次の世代へと送るのはいかがだろうか。このような恩の連鎖を繋げていく場として、首都圏段戸会がうつつつけの場所なのだから。



次回の第45回首都圏段戸会総会・懇親会の予定

〔日時〕 平成29年10月28日 (土) 13:00~16:40 (開始時間・終了時間は予定)
〔場所〕 アルカディア市ヶ谷 (私学会館) ……JR、地下鉄 市ヶ谷駅から徒歩2分

古稀年次代表の一言

高17回 山田 博子

第44回首都圏段戸会総会に17回生を古希祝として御招待頂き、感謝致します。首都圏岡高17会は、40歳の第1回より30年間毎年開催されています。混声合唱でご活躍の中尾君の「岡高で共に青春を過ごした同期生」との熱い思い、毎年交替の男女ペア幹事のご尽力の賜物です。首都圏段戸会総会への参加を元世話人佐伯さん・世話人伊與田君・私達が愛知県方面の方、お名前だけが頼りの方も時にはお電話でもお誘いし、卒後一氣に距離が短くなりました。高校の同窓会特有の信頼、幅広い年次の同窓生との交流の良さもお伝えし、浸透しました。「段戸山の会」他にも積極的に参加、楽しく活路を見出されている武藤さん。「段戸句会」に数々優秀作品を発表されている鈴木君



古希年次の皆さん（筆者は前列左端）

と深谷さん。故郷リターンで岡崎へ、繊細な印章彫で輝く東新家君。岡高の文化祭で紙テープ舞う中、青春歌「いつでも夢を」の歌姫、中野さん。箏・三味線との尺八定期演奏会に意欲的な伊藤君。ホームページを絶賛、良き理解者で歌舞伎鑑賞に燃える兵藤君。絵画鑑賞・旅行と悠々自適の安藤さん。退職後に参加希望を叶え、心はいつもドイツに在りの近藤君。「わんぱく小僧と転校生」思い出多き小学校の級友、小林君。「遠く岐阜から参加」有言実行の渡会君（拍手）。

学年会との同日・同会場開催にご尽力（効果大）の幹事中島君と深谷さん（前述）。以上参加者から『活躍している人の話は元気が出る。賑やかな会。心響く演奏』等々の嬉しいお便りが寄せられました。今年も私は「段戸音楽会」のソロ・セミソロの皆様と共に、微力ながら演奏で盛り上げ、友人・新しい友人との楽しい集いを楽しみにしています。私達17回生一同、次の「喜寿」を目指し楽しく頑張っていく所存です。

総会出席者の一言

高12回 杉浦 宏明、満智子

住まいが岡崎市にあるが、今回は息子（杉浦孝明 高41回）に講演の機会を与えて頂いたので特別に出席しました。自宅から東京駅に着き、御茶ノ水駅、総武線の市ヶ谷駅と大変懐かしい光景を眺めることが出来ました。学生時代はお茶の水駅辺りで書店周りをするなど楽しかった思い出もあります。総会は、高12回卒の同級生が約10人出席していました。

息子の講演会はテーマが「自動車の先進技術の動向と将来予測」ということで、車の自動運転のことでした。私自身が自



高12回の皆さん（筆者は左から2人目と4人目）

動車会社に42年間勤務した経験があります。事前に話の内容を知らなかったこともあり、何を喋るのか親としてハラハラして聞きました。

た。何とか時間内で講演を終わり、質疑の時間もあったので、お役目は果たしてくれたと一安心しました。その後の懇親会では、久しぶりに懐かしい仲間に出会い、昔話に花が咲きました。東京で学生時代6年間を過ごしたことがあり、久しぶりに学生時代を思い出す良い機会でした。首都圏段戸会が機会を作っていただけなので、今後も時々出席させていただきます。

高26回 日高 克二

首都圏に移住して5年になり、初めての首都圏段戸会に出席しました。岡崎での同窓会は2回しか出席しておらず、どんなものやら疑心暗鬼でしたが、老若男女いろんな方が参加されており、予想外に楽しんでしまいました。三菱総研の杉浦孝明さんの講演「自動車の先進技術の動向と将来予測」は、自動車産業に長年携わってきた身にとって、身近な話題で大変興味を持ってました。特に、自動運転技術開発の最近の状況は、今後の自分のビジネスを考えるヒントにもなりました。

懇親会は、同期4名が同じテーブルでスタートしたのですが、先輩あるいは後



高26回の皆さん（筆者は左から2人目）

輩たちとの自己紹介を通じて、次第に話題が深まると、意外にも仕事で関係があることがわかったりして、新鮮な驚きがあ

りました。予定の2次会は、同期だけでなく、若手紅一点も加わり、益々話題に興が乗ってしまい、市ヶ谷駅近くでの3次会にだけこみ、終電ぎりぎりの帰宅となりました。同期の事務局長織田さんを盛り立てるため、来年は、今回来られなかった同期の仲間も誘って参加し、より一層人脈を広げたいと思います。

高32回 堀内 友二

毎年参加していた総会だが海外勤務になって暫くご無沙汰していた。今回は一時帰国とうまく重なり5年ぶりの復帰だった。以前と比べ変わった点。参加者が増えたと、特に若い人が。私が歳をとって思うだけかもしれないが、岡高グッズは新鮮だった。思わず高級ボールペン



筆者は中央

が、私が歳をとって思うだけかもしれないが、岡高グッズは新鮮だった。思わず高級ボールペン



筆者は前列中央のトロンボーン奏者

高48回 羽佐田 泰弘
 「首都圏段戸会で演奏してみないか。」吹奏楽部の同級生である角田高志君に誘われたのは、ちょうど東京への転勤が決まった時だった。恐る恐る段戸音楽会の門を叩いたところ、「あつらー、羽佐田さんね！」と、元気に迎えてくださったのは、山田博子大先輩。大学進学以来、延べ15年近く住んだ東京は、もはや第二の故郷だ。家庭の事情か

を買ってしまった。講師の方も若くなつた。これからはシステムが安全運転をサポートしてくれるという講演は、5年間一切運転せずこのままペーパードライバーかと諦めかけていた私を少し安心させてくれた。
 以前と変わらない点。いつものように世話人の方々が大変温かく迎えてくれた。懇親会での様々な年代、バックグラウンドの人たちとのとても楽しく有意義な会話。私以外に同期はいなかったが、卒業年次で割り当てられたテーブルでは同年代の気安さから初対面でも話が弾んだ。どんなお仕事ですか？と話していたら同じ会社だったという偶然も。そして恒例の酒井さんのエールと校歌の締め。
 とても充実していて本当にあつという間の総会であった。また来年も：とはいかないかもしれないが、これからも段戸会の縁は大切にしたい。



筆者は中央

高54回 加藤 真悟
 この会の醍醐味は、普段はなかなか出会えない各方面でご活躍されている諸先輩方や後輩と、気軽に繋がることだ。同じ高校に通っていたというだけで、驚くほど心の壁がとり除かれること。が不思議だ。貴重な出会いが多く、会を通じたご縁から職場の近隣メンバーで、段戸会ランチをしたたり、

ら、数年前に岡崎に転居したが、今でも上京時の新幹線から東京タワーや霞が関の庁舎が見えると、往時を思い出して胸が熱くなる。
 そんなことから、総会参加を良い口実にして、第二の里帰りをする機会にさせてもらっている。そして、講演会で知的好奇心を満たし、懇親会で出会いを喜び、赤ら顔になって段戸音楽会で演奏する、この喜びの三重奏が、毎年楽しみでたまらない。ご多忙な中で、こういう場を設けてくださる世話人の皆様のご尽力には、本当に頭が下がる思いだ。
 実は、岡崎にいるよりも、首都圏段戸会に参加した方が、岡高の情報や同窓生との出会いが多いと感じる。故郷で生活しつつ、第二の故郷で故郷を思う。紆余曲折はあつたけれど、今の立場でなければ得られない醍醐味だと思っている。そして今後も、岡崎から里帰りさせていただければ幸いです。

高60回 鶴田 麻利子
 総会への参加は昨年に引き続き2回目となりました。高60回は世話人の人望の厚さのおかげで、若手の中でも参加者が比較的多く、昨年楽しく過ごすことができたことから、今年は前々から予定を空けて参加しました。
 今年は自分の所属していたソフトテニス部の顧問であった高井先生に久しぶりにお会いでき、部活の同期の近況などをお話することができました。また、懇親会中に大先輩方からもお声をかけていただき、若いころのご活躍や、現在のの趣味など様々なお話を聞かせることができ、とても刺激を受けました。皆さん非常にアクティブで、私も先輩方のようにいつまでもアクティブに過ごしたいと

段戸会メンバー数十名が集まった食事会にも参加させて頂いたり、繋がりをもっと広げることが出来た(同じ会社内にも先輩・後輩が何名もいらつしやることも判り、お会いすることも出来た(笑))。
 我々のような若手に与えられた役割は、諸先輩方より脈々と受け継がれてきた伝統的基盤を如何に下の代へと伝え、より発展させることかと思う。私に出来ることは積極的な会への参加呼びかけ等、小さいことではあるが、少しでもお役に立てればと考えている。
 この度、関西へ転勤となり数年は関西での生活となった。可能であれば次期総会にも関西から参加したいし、段戸会のご縁は引き続き大切にさせて頂きたいと思う。また、関西にも同様に「矢作会」と呼ばれる会もあると伺っているの、是非そちらにも参加し、段戸会との架け橋の一役を担い岡高生の輪を広げていければと考えている。



筆者は前列右から2人目

●「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。
 公式ホームページ <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会 検索

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

■ 総会の写真がホームページから見られます！

- (1) 首都圏段戸会ホームページの「NEW 第44回首都圏段戸会総会・懇親会の写真をアップしました」の説明文にある「[こちら](#)」を押す。
- (2) 「第44回首都圏段戸会総会写真集(総会前風景)」から順次「総会・講演会」、「懇親会」の写真が見られます。
- (3) 「総会・講演会」、「懇親会」から先に見たい方は、それぞれの青字のところを押すと、その写真まで飛んでいきます。

この総会は、母校を懐かしむ機会であることはもちろん、お会いする方々を通して岡高の歴史や、人のつながりも感じることが出来る機会でもあると改めて感じました。次回はより多くの同期と参加できるよう自分からも誘いたいと思います。最後になりますが、このような素晴らしい会を企画・運営くださった皆様、ありがとうございました。

も思いました(私が定年を迎える頃は、定年何歳になつていくのだろうかと思いつつ...)。幅広い年代の方が一堂に会する

第44回 首都圏段戸会総会・懇親会出席者 (平成28年10月開催)

| | | | | | | | | |
|-----------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|------|
| (岡高同窓会長) | 古澤武雄 | | 横井昭親 | (高33回) | 小笠原誠 | 小出一典 | | |
| (岡高校長) | 杉浦慶一郎 | (高17回) | 安藤智美 | 伊藤裕 | 鈴木祐子 | 田中寿 | | |
| (恩師) | 米津勇美 | 高井俊直 | 伊与田正彦 | 小林久雄 | 山本守正 | 山本岳彦 | | |
| | 三井範康 | | 近藤哲宏 | 佐伯寛子 | (高34回) | 板谷敏正 | 井上由美子 | |
| (中47回) | 神谷和郎 | | 鈴木寛 | 中尾幸男 | 鈴木宏一 | 柘植千明 | | |
| (高2・中51回) | 太田久 | 服部登 | 中島英治 | 中野房子 | (高35回) | 石井敦 | 糸井真由美 | |
| (高3・併23回) | 宇津野隼千 | 小澤一郎 | 東新家英二 | 兵藤善之 | 小川美季 | 渋谷禎則 | | |
| | 久保雅之 | 高木次男 | 深谷美智子 | 武藤隆子 | 菅伸介 | 古澤昌宏 | | |
| | 丹羽鼎 | 蜂須賀芳昭 | 山田博子 | 度会俊建 | (高38回) | 内田力 | 柴田哲良 | |
| | 松井淳子 | | (高18回) | 石原荘介 | 伊藤博邦 | 中西和幸 | 桃井聖司 | |
| (高4・併24回) | 鶴田日夫 | 成瀬榮二 | 音部昌宏 | 清水久雄 | (高40回) | 大田武 | 小嶋邦昭 | |
| (高6回) | 有馬弘政 | 長瀬けい子 | 杉山孝博 | 山内恵 | (高41回) | 杉浦孝明 | 中鉢朋子 | |
| (高7回) | 市川毅 | 近藤衛 | (高19回) | 安藤昭 | 香村幸夫 | (高42回) | 嶋田直哉 | 杉山崇 |
| | 斎藤悦子 | 是津定利 | 坂田徳雄 | 関森俊幸 | 長野麻子 | | | |
| | 永田綾子 | 蜂須賀ケイ子 | 竹内由紀江 | 都築正行 | (高44回) | 平形直人 | 松尾直樹 | |
| | 羽谷允 | 吹抜敬彦 | 中島邦子 | 野澤信一 | | 松田晴光 | | |
| | 森周子 | 米津松美 | 福島安史 | 福山透 | (高46回) | 浅井太郎 | 大川博 | |
| (高8回) | 小野勝巳 | 杉浦嘉久 | 宮崎収兄 | 村木央明 | (高47回) | 小島義博 | 酒井康博 | |
| | 高橋道人 | 田中厚生 | (高20回) | 天野隆太郎 | 安藤進 | 杉本いづみ | | |
| | 外村仁 | | 遠藤昇 | 神尾由恵 | (高48回) | 羽佐田泰弘 | | |
| (高9回) | 岡田敏夫 | 高木治子 | 北野光敏 | 関戸博高 | (高50回) | 鳥居福代 | | |
| | 坂郁子 | | 成田雅則 | 兵藤秀和 | (高52回) | 清水雄太 | | |
| (高10回) | 宇佐美忠利 | 山川肇爾 | (高21回) | 阿知波茂樹 | 渥美忠男 | (高53回) | 辻内直子 | |
| (高11回) | 青木かゑ子 | 太田栄之 | 生駒仁志 | 内山田邦夫 | 清水照雄 | (高54回) | 安藤康伸 | 岡田尚博 |
| | 永田宏 | 服部豊治 | 小栗恵子 | 兵藤幸治 | 德田登 | 加藤真悟 | 加藤直也 | |
| (高12回) | 稲垣早苗 | 鷓飼道孝 | 矢田金市 | 山田俊文 | (高56回) | 伊藤友香 | | |
| | 近藤祥子 | 杉浦宏明 | (高22回) | 上田洋子 | 中村賢治 | (高57回) | 小田亜矢子 | 加納実久 |
| | 杉浦満智子 | 鈴木紀夫 | 藪田和夫 | 渡辺嘉一 | 川口敦子 | 原彩子 | | |
| | 鶴田文男 | 成瀬徹 | (高23回) | 成田宏史 | 野々山浩 | 廣崎由佳 | | |
| | 吹抜洋司 | 星野陽一 | (高25回) | 明保治男 | 岡田弥生 | (高58回) | 石川航己 | 竹内詩織 |
| (高13回) | 新井康夫 | 神道千秋 | 戸田讓三 | | 鳥山順丘 | 鳥山治子 | | |
| | 杉原洋 | 中浩之 | (高26回) | 大山幸信 | 織田利彦 | (高59回) | 嶋田亘 | 戸田隆一 |
| | 藤田訓弘 | 本多正之 | 日高克二 | 山本修己 | (高60回) | 岩月泰典 | 小室友紀 | |
| (高14回) | 阿部完二 | 天野彰 | (高27回) | 長田光雄 | 藤原波一 | 杉浦綾香 | 杉田豊 | |
| | 磯尾進 | 金澤忠幸 | 山崎正枝 | | 鶴田麻莉子 | 内藤恵子 | | |
| | 糸田輝義 | 笹瀬修 | (高28回) | 太田也寸志 | 酒井邦彦 | 本多健太郎 | | |
| | 中島綾子 | 水谷鏡子 | (高29回) | 嶋田薫 | | (高61回) | 中原槿子 | |
| (高15回) | 神谷国広 | 杉崎慎一郎 | 長坂光司 | | (高63回) | 柳下柚子 | 吉兼峻史 | |
| | 満江信之 | | (高30回) | 松井伸介 | 米津智徳 | (高64回) | 坂井亮佑 | 藤原裕樹 |
| (高16回) | 大山達雄 | 鈴木貞雄 | (高31回) | 高原正之 | | (高65回) | 稲垣葉子 | |
| | 鈴木勢津子 | 鈴木多恵子 | (高32回) | 堀内友二 | | | | |
| | 鈴木弘恵 | 野村親信 | | | | | | |

出席者合計 221名

第44回 総会議事報告

首都圏段戸会総会は、平成28年10月29日にアルカディア市ヶ谷において、来賓として古澤武雄岡高同窓会長（高14回）杉浦慶一郎岡高校長をお迎えして開催され、次の2件が付議・決定されました。

新四役の選任

第40回総会（平成24年10月）で会長に選任され、以来4年間に亘り首都圏段戸会の発展、更には岡崎高校同窓会、矢作会（関西圏の岡高同窓会）との連携の強化にご尽力頂きました野村親信会長（高16回）が退任され、次の方々が新四役に選任されました。

会長

村木 央明（新任、高19回）

副会長

上田 洋子（留任、高22回）

事務局長

織田 利彦（留任、高26回）

副事務局長

板谷 敏正（留任、高34回）

井上由美子（留任、高34回）

会計報告・監査報告の承認

平成27年度（1～12月）の会計報告・監査報告が行われ、承認されました。

なお、平成27年度の会計報告・監査報告の詳細は、会報37号（平成28年4月発行）に掲載されています。



新四役の皆さん



新旧会長の握手！

講演会

総会議事終了後、杉浦孝明さん（高41回）から「自動運転技術で未来のクルマはどう変わるか？」というテーマで、今話題の車の自動運転について幅広い見地から、最新の動向等について講演をして頂きました。

人生お楽しみ中！

混声合唱を謳歌して

高17回 中尾幸男

母校のコーラス部の素晴らしい活躍は皆様もご存じのことと思います。小生も当時の合唱部に一時所属しておりましたが、途中でやめてしまったため、大学の部活は迷いなく混声合唱団を選び、4年間活動しました。卒業後、しばらく合唱から遠ざかっていましたが、20年程前にその卒団生が集ってOB・OG合唱団が結成されました。それをきっかけに、学生時代同じ合唱団に所属していた連れ合いと一緒に参加し、再び合唱を始めました。

現在の団員の構成は40代から70代まで。メンバーの高齢化に伴い団員数は結成当時よりかなり減り、現在は40名程になりましたが、自称「ジジババ合唱団」と聞き直りながらも、楽しく元気に練習に励んでいます。

練習は毎週土曜日の午後、30分の発声練習を含め、約3時間余りです。合唱団にとって練習場と演奏会場の確保は結構苦労するのですが、幸い、練習場は団員が所有する場所を常時使用、また、演奏会場は都内でも音響効果の良いことで知られる紀尾井ホールを毎回使用出来てきたことは大変ラッキーでした。

演奏会はほぼ1年半ごとに開催されます。初めて演奏を聴きにきてくれたお客様は、演奏内容はともかく、まず一様に



ホールの素晴らしいさをほめます！? 常任指揮者は元後輩団員で、卒業後芸大に入り直し、プロとして活動している強者です。客演指揮者は50年前、学生時代にも指導を受けた、御年85才になる先生です。演奏会は毎回、懐かしい学生時代に思いを馳せ、校歌の演奏に始まり、ラストは、早稲田の栄光で終わるのが定番となっています。曲のレパートリーはクラシックの宗教曲から、邦人作曲家による組曲、日本民謡、小学唱歌、外国のポピュラーな曲等幅広く取り上げてきました。難曲に取り組んで、演奏会を無事終えた時の感動は特別なものがあります。その時は打ち上げのお酒の味もまた格別です！

今回の演奏会は本年5月21日、紀尾井ホールで第14回目となります。プログラムはヨハンシュトラウスのウインナーワルツ、難曲が多い武満徹作品、内外のノスタルジックな作品にチャレンジ致します。毎週、期待と不安の中での練習が続きます。

なぜこの仕事を？ — 鉄鋼の巻

高60回 藪押 知美

私は、新日鉄住金株式会社で事務系社員として働いています。鉄鋼メーカーの事務系社員の特徴は、ジョブローテーションで、様々な職種を経験して成長することが求められることです。勤務場所（全国12か所の製鐵所・東京本社・海外事務所・海外製造拠点等）・職種（営業・原料調達・コーポレート等）が数年単位で変わっていき、キャリア形成は十人十色です。

私の場合は、入社後は名古屋製鐵所の経理に配属、原価管理を担当しました。経理というと電卓を弾いて費用を計算して……というイメージを持たれるかもしれませんが、実はその先の「経営管理」がメインで、各工場のコンサルタントと呼ばれるています。工場毎・品種毎の予算を立て、実績をフォローし、数値から見える課題を発掘し、関係者に情報発信し、改善施策に繋げる、といったPDCAサイクルを回しています。

その後2016年4月に本社へ異動、現在は財務部でグループファイナンスを



新婚旅行にて（筆者は左）

担当しています。製鉄業は装置産業のため巨額の資金が必要で、当社の有利子負債は2兆円近くとなります。そこで、これを削減して財務体質を改善し、長期的な資金調達コストの削減を目指すのが私の仕事です。具体的には、グループ各社の最適な資金調達のサポートと、当社が親会社として資金余剰会社から資金調達し、それを資金不足会社にグループ内融資し、連結資金効率を向上させることです。

生涯にわたり様々な人と関わることができる。これが、私が当社の事務系社員に一番魅力を感じたところです。名古屋時代は、工場の操業実態を把握するためヘルメットをかぶってよく現場に行きました。お陰で、工場の方とも親密になり、仕事帰りの飲み・休日のゴルフもしばしば。本社においても、金融機関と定期的に対話したり、グループ会社の工場を見学させて頂いたり、夜も飲み会で密接に連携したりと。様々な職種を経験する分、多くの人と関わり、色々な考えに触れるのが魅力的で、それが自身の成長につながると思っています。

私生活はというと、社内結婚し2年。主人は名古屋製鐵所のエンジニアで、現在は私が東京へ単身赴任中です。東京名古屋間と近距離なので、帰省時には始発の新幹線で出社しています。

今後は、他の製鐵所や海外拠点で経験を積み、様々な視点で物事を考えられるジュネラリストを目指していきたいと思いますが、家庭生活ともバランスをとれるように、会社とも主人とも対話を重ね

て行きたいと思っています。

高60回 平出 隆志

私は2014年にJFEスチールに入社し、研究開発部門に所属しています。

私の仕事は、自社製品である鉄鋼材料と鉄鋼製品の「破壊」に対する性能を向上させるための研究開発です。主に船や橋梁等の大型構造物の疲労に対する特性向上手法を開発しています。疲労とは、物体に負荷が繰り返し与えられることで亀裂（割れ）が発生し、その後徐々に成長する現象で、最終的に物体の破壊に至ります。この現象が実際の構造物で起こると、大規模な事故に繋がる可能性があるため、対疲労特性の向上は社会的に非常に重要となります。金属の疲労は産業革命以降問題とされ、これまで数多くの研究が行われてきましたが、疲労に対する材料の影響は未だに明らかとなっていない点が多くあります。残された課題は難しいものばかりですが、それを明らかにしようとして取り組める事にやりがいを感じています。

仕事では、まず問題に対する仮説を立て、それを検証するために必要な研究の計画を決めます。続いて、構造を模擬した試験やコンピュータを利用した数値解析を行い、データの計測や結果の分析をします。そして、結果を仮説と比較し考察をします。必要があれば追加の試験等を計画します。この繰り返して問題の解明に至るといのが理想的な研究だと考えています。また、得られた成果は国内外の学会や論文で発表します。写真は昨



学会の仲間と一緒に（筆者は左）

年秋の溶接学会懇親会で、自分の発表を終えた日で完全に気が抜けています。なぜこの仕事を？という質問に対する答え

は「自分の志向と会社・仕事の性質が一致していたから」です。私は物心ついた頃から目立ちたがり、褒められたがり、将来は多くの人に貢献し、自分の仕事の成果を知ってもらえる仕事に就きたいと考えていました。高校で理系の道を選び、大学の課程で地球温暖化・環境&エネルギー・金属資源開発と工学的に大規模な分野を専攻しました。大学院からエネルギー関係で縁のあった鉄鋼材料の破壊を専攻する研究室にお世話になり、そこで製鉄業が飲料缶等の身近な物から大型構造物まで世の中のあらゆる所に貢献すること、破壊力学が研究分野としてこれから更に発展し自分の活躍を残せる可能性があることを知りました。JFEスチールの企業理念は「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」で、正に私の目指すところと一致していました。私が素晴らしい研究成果を残し、世界そして多くの人に貢献できるかはこれからの事ですが、これからも充実した研究生活を送りたいと考えています。

平成28年度 オープンキャンパス開催報告

高66回 磯田 尚人



オープンキャンパス参加の皆さん(筆者は後列一番左)

2016年8月6日、強い日差しのもと、本年度も例年に倣い東京大学オープンキャンパスを実施させていただきました。東京大学での研究室体験に参加した生徒の方々を中心に12名の岡崎高校2年生に参加していただきました。東大在学中のOB・OG5名の協力のもと、東京大学本郷キャンパス内の案内を行いました。赤門や安田講堂のような有名な建物

の他、各学部の建物を紹介してまわりました。各学部がどのような構成になっているか、どのようなことが学べるか、どのような授業形態か、といったことを逐次OB・OGが紹介しました。また、図書館や食堂、御殿下記念館などの施設の前を通った時には、施設の紹介をしつつ、

会を行いました。大学での勉強、サークル活動、アルバイト、1人暮らし、進学振り分け制度といった大学入学後の話と各教科の勉強法、受験を控えたときの心構え、勉強と部活の両立といった高校時代の話を主にしました。私自身がそうだったように、愛知県の高校生にとって東大は遠く、イメージが湧きにくいものだと思います。今回のオープンキャンパスでは、少しでも岡高生に東大が身近なものだと感じてもらえるよう、高校生の彼ら自身が数年後東大で学ぶイメージがしやすくなるように意識しました。

今回オープンキャンパスの引率責任者を見せていただき、自分自身がお世話になった母校の役に立つ機会をいただくことができうれしく思います。これを機に参加していただいた岡高生の勉強へのモチベーションが上がり、1人でも多くの岡高生に東大を目指そうと思ってくれていれば幸いです。

また、この場をお借りして、ご協力いただいた首都圏段戸会の皆様、東大在学中のOB・OGの皆様、引率していただいた岡崎高校の先生方にお礼申し上げます。ありがとうございます。

段戸サークル活動報告 「段戸音楽会」のご紹介

高56回 伊藤 友香

突然ですが、段戸音楽会の良いところを三つお伝えします。2016年9月に入会した筆者の独断と偏見に基づいておりますので予めご了承ください。



首都圏段戸会総会にて(お箏奏者が筆者)

☆メンバーがとっても優しい！
岡高といえは、勉強だけでなく音楽の才能もある人が多かったように記憶しています。
コーラス部も吹奏楽部

もよく表彰されていましたし、シヨパンをさらっと弾いてしまう同級生も多かったです。そんなイメージがあり、段戸音楽会も怖いところの気がしていたのですが、予想に反して皆さんとても優しく歓迎してくださりました。私の稚拙な質問にも嫌な顔一つせず答えてくださり、楽しく参加させていただいています。百均で売っている楽器だけを使った「百均音楽隊」を作りたいとか、ちくわで作った笛で演奏しようとか自由な提案も出てきます。

☆上手く演奏している気分になれる！
私のようななど素人を温かく受け入れてくれる一方、ずっと音楽をやってきたメンバーもいます。総会で演奏した『新日本紀行』の編曲者の桃井さんもメンバーです。経験豊かな人たちが曲の雰囲気を作ってくれるので自分も上手く演奏している気分になれます(笑)。総会での演奏も全員で合わせたのが当日の午前中だけでした。それでも曲が成立するのはリードできるメンバーがいるお陰です。
段戸音楽会では新メンバーを随時募集しています。アットホームな会なので、個々の事情に応じた対応もでき(と思っています)ます。「やってみたいかも…」そんな気持ちになった方は是非一度ご連絡ください！皆さんと音楽を楽しめることを楽しみにしています。

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

“段戸囲碁会”

(幹事：藤田 訓弘 高13回) kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸音楽会”

(幹事：石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com

“段戸句会”

(幹事：小森 稔子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp

“段戸山の会”

(幹事：満江 信之 高15回) nmitsue@ae.auone-net.jp

平成28年度 会計報告・監査報告

会計及び会計監査の方々のご尽力により、平成28(2016)年度 会計報告・監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。
 なお、会計報告・監査報告は、次回の第45回首都圏段戸会総会(平成29年10月28日開催)において、会員の皆様の承認を経て、最終的に確定いたします。

貸借対照表

平成28年12月31日現在 (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|------------|-----------|
| I 資産の部 | |
| 現 金 | 0 |
| 通 常 貯 金 | 1,839,135 |
| 郵 便 振 替 | 0 |
| 資 産 合 計 | 1,839,135 |
| II 負債の部 | |
| 未 払 金 | 0 |
| 負 債 計 | 0 |
| III 正味財産の部 | |
| 正 味 財 産 | 1,839,135 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,839,135 |

収支計算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで (単位：円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------------|-----------|
| I 収入の部 | |
| 10月総会懇親会費収入 | 1,187,000 |
| 10月総会時運営協力金 | 302,000 |
| 運 営 協 力 金 | 1,102,000 |
| 寄 付 金 | 40,000 |
| 雑 収 | 3,000 |
| 受 取 利 息 | 106 |
| 当 期 収 入 合 計 | 2,634,106 |
| II 支出の部 | |
| 10月総会懇親会費用 | 1,410,535 |
| 会 報 費 用 | 961,822 |
| 世 話 人 会 費 用 | 103,030 |
| 雑 費 | 5,082 |
| 送 金 振 込 手 数 料 | 37,110 |
| 当 期 支 出 合 計 | 2,517,579 |
| 当 期 収 支 差 額 | 116,527 |
| 前 期 繰 越 収 支 差 額 | 1,722,608 |
| 次 期 繰 越 収 支 差 額 | 1,839,135 |

監 査 報 告 書

首都圏段戸会の平成28年度(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成29年1月31日

会計監査 辻村 貴典
 会計監査 戸田 謙三

平成29年 首都圏段戸会 世話人名簿

- (高2回) 服部 登
- (高3回) 丹羽 鼎
- (高6回) 有馬 弘政
- (高7回) 是津 定利
- (高8回) 杉浦 嘉久
- 田中 厚生 広報
- (高9回) 岡田 敏夫
- (高10回) 宇佐美 忠利
- (高11回) 太田 栄之
- 永田 宏
- (高12回) 鶴田 文男
- 成瀬 徹
- (高13回) 中 浩
- (高14回) 磯尾 進
- 水谷 鏡子
- (高15回) 神谷 国広
- 満江 信之
- (高16回) 横井 昭親
- (高17回) 伊與田 正彦
- 山田 博子
- (高18回) 伊藤 博邦
- 音部 昌宏
- 清水 久雄
- 山内 恵
- (高19回) 都築 正行 会計
- 福山 透 情報

- 村木 央明 会長・広報
- (高20回) 天野 隆太郎 企画
- 辻村 貴典 会計監査
- (高21回) 小栗 恵子
- 山田 俊文
- (高22回) 上田 洋子 副会長・書記
- 中村 賢治
- (高23回) 野々山 浩 会計
- (高25回) 戸田 謙三 会計監査
- (高26回) 大山 幸信
- 織田 利彦 事務局長・企画・広報
- (高27回) 長田 光雄 会計
- 岸 洋平 会計
- 山崎 正枝
- (高28回) 酒井 邦彦
- (高30回) 米津 智徳
- (高31回) 高原 正之 企画
- (高33回) 小出 一典
- (高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報
- 井上 由美子 副事務局長・企画
- (高35回) 糸井 真由美
- 小川 美季 会員
- 菅 伸介 会員
- (高36回) 平松 理生
- (高38回) 内田 力

- 中西 和幸 企画
- (高40回) 大田 武 会計
- (高41回) 中鉢 朋子
- (高42回) 長野 麻子 広報
- (高44回) 松尾 直樹 企画
- (高45回) 筒井 貴之 情報
- 西浦 瑞恵
- (高46回) 朝岡 大輔
- 大川 博 広報
- (高47回) 杉本 いづみ 会員
- (高50回) 鳥居 福代 情報
- (高52回) 近藤 佳子 広報
- 清水 雄太 情報
- (高53回) 石井 貴大
- 辻内 直子
- (高54回) 安藤 康伸
- 岡田 尚博
- 加藤 直也 広報
- (高57回) 川口 敦子
- (高58回) 石川 航己 企画
- 鳥山 順丘
- (高59回) 嶋田 亘
- (高60回) 本多 健太郎
- (高61回) 中原 槇子
- (高62回) 粟津 文香
- (高63回) 吉兼 峻史

編集後記

杉浦さんに総会・懇親会報告の執筆依頼をする際に、「これまでの世話人としての色々な活動、オープンキャンパスで出会った岡高生、手伝ってくれた後輩達との思い出などを織り交せて」とお願いしたら、素晴らしい原稿が送られてきた。「恩送り」という言葉は知らなかったが、共感するところが多かった。振り返ってみると、執筆者の方々が「恩送り」の思いを込めて書かれたと思われる原稿に出会ったことも、多かつたように思う。

本号の「出席者の一言」にも、総会に出席して、「同じ高校に通っていたというだけで、驚くほど心の壁が取り除かれる。」という「不思議な感じ」という「不思議な感じ」について触れたものがあった。私も、嘗て同じ経験をした。誰かにこの「不思議」を説明して欲しいし、未だの方には是非経験して欲しいと思う。

本号は私が編集責任人と出す最後の号となる。世話人名簿に「広報担当」とある6名のメンバーと一緒に「在宅勤務方式」で編集をしているが、毎号1回は編集会議と称してランチ会をし、校正、次号の企画などを行っている。ただ、ランチ会なので、途中で話があちこちに飛び、時には異業種交流会的になることも：この雰囲気、楽しんでたのであれば、これからも裏方として、編集のお手伝いという形で「恩送り」をさせて頂きたいと思う。

(村木)